

福利厚生委員会だより

■ 子育て支援 令和2年度 放課後児童クラブ世代間交流事業のようす

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で夏休みが短縮され、世代間交流事業実施についても依頼そのものが凍結している状況でした。

また、支援事業実施にあたっては新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策（三密回避）の徹底を図るために検温、消毒、マスク着用等、支援会員自身も感染症拡大防止に神経をそそぎました。児童に対しては道具類の除菌等の徹底を図り、通常の支援内容にプラスαのことが必要とされました。支援会員は最小限の人員で臨みました。

精華町内7施設を一巡して小規模支援を実施しました。

参加児童410名、指導員47名、支援会員延べ29名で、支援メニューは総じて児童がひとりで完結できる内容を提案しました。

◆万華鏡づくり◆

低学年は細かい部分になると手助けが必要となり、会員が個々に距離をおいて完成に導きました。

できあがった万華鏡をクルクル…と、自分の世界で楽しんでいました。



◆うちわづくり◆

「これなに？」と、うちわを知らない児童がいて、驚きました。

白地のうちわに絵柄を描き、シールやポンポン、キラキラの装飾品をボンドでつけてオリジナルうちわの完成を目指しました。

「海に行きたいから」、「花火が見たいから」と新型コロナウイルスの影響と考えることばが飛び交っていました。



◆エコバックづくり◆

開始と同時に特別なマジックペンで好きな絵柄を描きはじめました。

そのマジックペンの数が足らず、油性マジックペンの使用を可としたことで、彩り鮮やかなバックが誕生しました。興味のある虫や妖怪、漫画のキャラクターが勢揃いしました。



◆風鈴づくり◆

素焼きの風鈴に思い思いの絵柄を描き、風の当たる短冊にはご両親への感謝のことばが詰まったメッセージが・・・。

